

☆Cha Cha Cha☆

研究通信 No. 18
令和5年9月12日(火)
文責：荒巖

平川先生の授業に学ぶ！(授業後研究会)

誰もがつきつけられたのではないのでしょうか。思いがけない意見が出たり、たくさんの考えが出てしまったりした時、「あなたならどうする？」。

授業はLIVEですのでそんな時もあります。でも、そういう場面だからこそわくわくした先生もいらっしやるのでは？

研究会では、児童が学びを楽しむ姿とは？教師のコーディネートとは？について時間が足りないうらい討議がもり上がりました。



学びを楽しむ姿

自らを高め続ける姿

1つの前提と2つの視点

教師のコーディネート



①子どもの姿

- ・一生懸命解問題を解こうとしていた。
- ・意見をよく言っていた。よく考えていた。
- ・本を立てる瞬間がわっと盛り上がっていた。
- ・迷っているまま進んでしまった。
- ・分かっていない子が活かされていた授業だったか。

分かっていない子がいかされる授業というのは、教師のコーディネートにかかっています！

②教師の姿(コーディネート)「たくさんの意見が出た時にそれをまとめる練習が教師にも必要」という意見がありました。そこで、たくさんの意見が出た後、どんな展開にするか、または何から始めるかの意見をまとめました。誤答をどう活かしていくかがポイントですね！

- A 明らかに違う解答をはずしていき、「7」と「7あまり2」にしぼって考えさせる。
- B 7あまり2の単位を先に整理すると、8や9も整理されるのでは。足すか引くかで話し合わせる。
- C あまりをおさえて、2つ3つの人たちに道具を使ったり図を使ったりして説明する。
- D 「9冊」の考えが出た時に「あまりを足したんだよね。2冊？2cm？」とあまりに注目させる。
- E 「2cmと7冊」と出ている児童が多かったため、そこをおさえる。
- F 児童がかいた図を示し、図の間違いの部分に注目して正しい図を皆で話し合っていく。

たくさんの展開の案が出されました。このように、教科やその日の内容で展開の案はいくらでもあります。その中から適切だと思う展開を瞬時に判断してコーディネートしていくことができたらいのですが……。できないので、日頃の1時間1時間の授業を意識して流していかないといけないのかな、と思っているところです。誤答を活かすことが子どもの「問い」に沿った展開になるんですね。

③今後に活かすこと

- ・図を使ってもいい、板書を囲ってもいい、相手意識をもった発表をたくさん経験させる。
- ・「つぶやきの拾い方」「授業のまとめ方」、「どの順に発表させるか」を練習するべき。
- ・子どもが「おかしいぞ」「だって・・・」と言い合えるような対話が出てくる話合い、解決できるような流れをつくりたい。

